

## ○ ワークショップ「国際会計研究会」

開催責任者 ビジネス研究科 白木俊彦

2011年3月18日

南山大学名古屋キャンパス J棟415室



ワークショップは以下のプログラムで開催された。

### ◇報告者および題目

松原 沙織 氏（東海大学政治経済学部経営学科専任講師）

「包括利益に関する検討－新株予約権の取扱いに関連付けて－」

今福 愛志 氏（日本大学経済学部教授）

「退職給付会計－基準をめぐる国際的動向－」

### ◇ワークショップの討論内容

今年度は1名の報告者が都合により報告できないことになり2名の報告により国際会計の最新の動向について議論が行われた。

第一報告者は、米国および日本において新株予約権の異なる取扱いの背景にある思考を導いた上で、連結財務諸表を前提に子会社の新株予約権を失効時に利益へ振り替える処理方法が、利益計算へ与える意味を明らかにすることを目的とした報告で、新株予約権の意義に係る議論であった。

検討の結果、子会社の新株予約権を失効時に利益へ振り替える処理方法が、親会社説型純利益と経済的単一体説型包括利益へ差をもたらすことが確認された。新株予約権戻入益が実現した収益である点を踏まえるならば、このことは、親会社説型純利益と経済的単一体説型包括利益との差について認識の視点から説明することが困難であるという意味をもたらす。

第二報告者においては、わが国だけでなく国際的に企業年金制度、とりわけ確定給付年金制度の改革が活発に論じられている近年、国際財務報告基準（IFRS）もまたこれまでになく企業年金制度の実態の透明性と比較可能性を高めるための改革をおし進めている現状が報告された。年金債務－退職給付債務－のオンバランス化が一段と求められ、わが国企業への大きなインパクトが予想されている。本報告では、こうした観点から最近の退職給付会計基準をめぐる国際的動向について IFRS、EU そして米国の会計基準を比較検討しながら明らかなされ、米国基準に関する質疑も行われた。

#### ◇研究成果発表

これから発表されるものについては、各先生方にお任せしています。